檜枝岐水系／実川硫黄沢

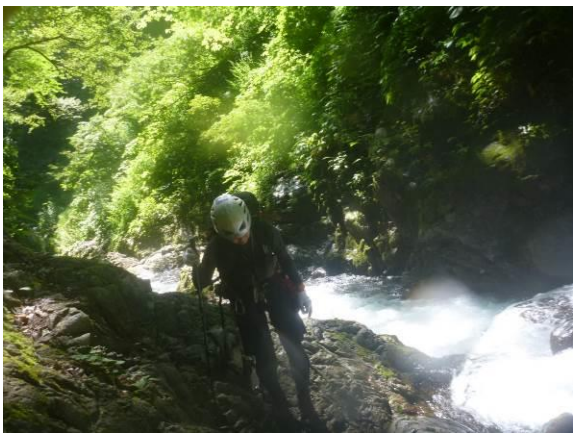
記　T村M

2021/8/28(土)～2021/8/29(日)沢１泊
メンバー:　Ｔ村Ｍ　Ｔ村Ｅ

7 月末の尿前川以降、台風が来たり、休日に天気が崩れるという最悪の状態が続き、ことごとく計画がつぶれていた。
久々の好天の週末で、兼ねてから行ってみようと思っていた硫黄沢に行ってきた。水量の多い沢ということで、尿前川での苦行を思い出し心配したが、登れる滝が多く、難しい滝は明瞭な巻道があり、アプローチも詰めも短く、とても楽しい沢だった。

2021/8/28(土)　晴れのち曇り
前夜発、東北道矢板北PAで仮眠したが、暑さと周りのトラックのエンジン音で眠れず、0:00を過ぎて西那須野塩原ICを降りて、「道の駅　湯の香しおばら」に移動し再度仮眠、道の駅は涼しくて静かだった。朝は道の駅近くのコンビニに寄り、檜枝岐へ移動。当初車を七入駐車場に停めて、下山時にシャトルバスで御池まで乗り、御池で路線バスに乗り換えて七入に戻る予定だったが、路線バスの午前の便が一本無くなって、御池でかなりの時間待ちになるので、御池に車を停めておくことにした。御池から朝一番(8:30)の檜枝岐行のバスに乗り、8：44に七入バス停に到着。沢装備をして9:10行動を開始した。
9:25　堰堤を左岸から越えたところから入渓。堰堤の上は広い少し藪っぽい河原になっていて、小川が蛇行している。上流に向けて適当に進んで行くと、徐々に小滝が出てきた。どの滝も問題なく越えて行けた。

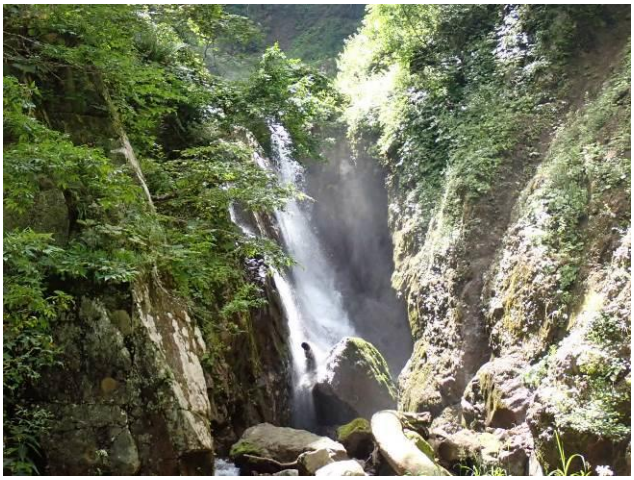
9:50　深く大きな釜を持つ滝が3つ続く。最初の2つは、釜の右岸の水際を進み、3つ目の滝は水流の左側を登る。しばらくミニゴルジュ帯になるが、水流を、足場を見つけながら進んだ。ゴルジュ出口にある左に屈曲した6m滝は釜が深く両岸が切り立っていて取りつけないので、右岸の巻道を利用して超えた。6m滝を超えると徐々に渓相が開けてゆき、小滝が続いた。



11:20 蛇滝と言われている多段8m滝に到着。この滝は階段状になっている水流の左側を登り、続く深い釜を持った7m滝は、左壁を登る。参考にしたブログの記事には7m滝はロープを出して登ったと書いていたので、一応ロープを出して登ったが、手足の置き場がしっかりあって、その前の多段8m(蛇滝)よりも簡単だった。この滝(7m滝)は、フリーで登れる。ロープの出し入れの時間が無駄になった。

しばらくは、ゴーロが続くが、沢の屈曲に合わせて左右の平坦地をショートカットで進む。

12:15 20m大滝は右岸の明瞭な巻道を利用して巻く。巻きすぎると続く2条10m滝も巻いてしまうので、巻きすぎないように、滝の落ち口の高さを目指して進み、2条10m滝下に降りる。



2条10mを超えると、今回の核心の2段6mと15m滝が出てくる。2段6mは左岸の急なルンゼ状の壁を使って巻いて15m滝下に出る。15m滝は、ロープを出して左岸の急な壁を登った。上部5mは立っているが手足の置き場は豊富で、また、ハーケンが数本打たれていてそれを利用して安心して登れた。

13:30 大滝を超えると、ゴルジュになる。 ゴルジュの出口は深くて長い淵になっているが、左岸をへつりで超えられるらしいということでへつってみたが、5mほど進んだところで、足場が無くつるつるの壁のへつりになる。泳ぎは全然ダメなので、ゴルジュの入口あたりに戻り、左岸の一段上のバンドに上がり、つるつるの壁を超えたあたりから、出口手前のバンドへ下る。下る際、足元が見えなかったので、ハーケンと捨て縄を一個セットし、5m程の懸垂で降りた。

14:20 ゴルジュを抜けたところのテン場に到着。先行者がいたが、半分開けてくれたので、そこを今日のテン場にする。先行者にゴルジュの抜け方を聞いたところ、ゴルジュの右岸に足場がずっと続いていて、簡単に超えられたということだった。

ツェルトにフライをかぶせ設営し、焚火の準備をして焚火に火をつけたが、うまく火がつかず、弱い火でご飯を炊きなんとかお湯を沸かし夕食にありつけた。 何度やっても焚火がうまくならない。焚火のつけ方を勉強しなくては…。焚火で物を乾かしたり、ゴミを燃やしたりすることもできず19:00には早々に就寝した。

ｺｰｽﾀｲﾑ : 9:09 七入～9:25 入渓(堰堤越えた所)～10:51 二俣（モーカケ沢出合）～11:21 蛇滝～12:19 三条20m滝（高巻き）～12:39 大滝～13:34 ゴルジュ～14:15 テン場（1360m）

2021/8/29(日) 曇りのち晴れ

夜中から明け方にかけて雨がぱらついたが、気温はそれほど下がらなかったため、寒さで目が覚めることも無く、朝までぐっすり眠れた。5:00起床、朝食を摂り、ツェルトを撤収し、7:00テン場を出発。

テン場から先もしばらくは小滝が続くが、流れも穏やかになり、30分ほどで、平坦な河原歩きとなる。

8:38 左岸から枝沢が架かる。この枝沢が車道に一番近い沢ということだ。（同じテン場にいたパーティーはここから車道に上がったらしい。ここから上がれば、40分程の車道歩きで御池の駐車場に戻れるらしい。）
次回来るときはこの枝沢を上がることにしたいと思う。

8:44 最後の深く大きな釜を持った滝を右岸の巻道を使って巻く。後は沢を右俣、右俣と選択し進むと車道が見え

てきた。沢は車道をくぐるようになっているが、手前の右岸側から藪漕ぎなしで車道に出れた。

8:48 車道に出る。シャトルバスが来るのを待つ間、沢靴以外の装備を解除し休憩していると、沼山峠に行くバスや管理関係の車の運転手の方が、声掛けをしてくれ、御池行のシャトルバスは沼山峠を10:10に出るということを教えてくれた。

10:15 御池行のシャトルバスに乗り、御池に10:20ごろに到着。沢靴を洗い、荷物を車に積み、温泉へ向かう。温泉は、5月の燧ケ岳スキーの帰りにも利用した燧ノ湯で汗を流し、帰路についた。

今回、ゴルジュの通過の際のルーファイの失敗と、焚火の失敗があったが、沢全体としては、水量が多い割には難しいところもなく、楽しい沢だった。

ｺｰｽﾀｲﾑ ：7:00 テン場（1360m）～8:38 枝沢(道路への近道) ～8:44 ハング滝(高巻き) ～9:06 二俣(右へ) ～9:23 二俣(右へ) ～9:48 道路

以上